

教育・研究業績書

<p>診療科名 越谷病院脳神経外科</p>		
<p><教員の紹介></p> <p>教授 兵頭 明夫 講師 田中 喜展</p>		
<p>I 教育活動</p>		
<p>教育実践上の主な業績</p>	<p>年月</p>	<p>概要</p>
<p>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</p>		
<p>学生の授業参加の向上の取り組み</p>	<p>2008年5月～現在</p>	<p>臨床現場における人と人のコミュニケーションの重要性を体験させるようにし、クリニカルクラークシップを医学生の臨床教育の初期段階として、有効に活用した。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>「脳神経血管内治療の Do's & Don'ts 第2版」 版「脳神経血管内治療のすべて—最新症例から学ぶ—」 「医学大辞典第2版」の分担執筆と教材作成</p>	<p>2006年 2007年 2009年</p>	<p>脳血管内治療に関する著祖を執筆、授業の参考資料として活用している。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>さいたまブレインフォーラム 21 市民公開講座特別講演「切らずに治す脳卒中の治療」</p> <p>CAS for cardiologists～循環器 Dr のためのCASセミナー 「循環器 Dr に向けてのCASのアドバイス」</p>	<p>2008年11月 2009年4月</p>	<p>脳卒中の血管内治療に関し、一般市民の教育目的に講演した。</p> <p>循環器 Dr にむけて CAS の教育という観点から講演を行った。</p>

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院脳神経外科	教授	兵頭 明夫	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1982年 1月～現在	日本脳神経超音波学会評議員		
1983年 7月～現在	日本脳神経外科学会評議員		
1996年 11月～現在	日本脳神経血管内治療学会運営委員、理事		
2007年 1月～現在	日本脳卒中の外科学会運営委員、編集委員		
2008年 1月～現在	Neurologia medico-chirurgica 査読委員		
2009年 4月～現在	Acta Neurochirurgica, Editorial Board		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>兵頭明夫</u> ：脳血管障害、脳動脈瘤、細菌性脳動脈瘤「脳神経外科手術アトラス 下巻」、山浦晶編、87-89、医学書院（東京）、2005.			
2. <u>兵頭明夫</u> ：血管内手術、動脈瘤、内頸動脈瘤、中大脳動脈瘤、前大脳動脈瘤（血管攣縮治療を含む）「脳神経外科手術アトラス 下巻」、山浦晶編、457-469、医学書院（東京）、2005.			
3. <u>兵頭明夫</u> ：「脳動脈瘤の血管内治療—最新症例集—」、菊池晴彦監修、兵頭明夫、坂井信幸、瓢子敏夫、松丸祐司編、先端医療技術研究所（東京）、2005.			
4. 吉井與志彦、土田幸広、杉本耕一、 <u>兵頭明夫</u> 、与那覇博克、久志助光、富永大介：グリオーマの広範囲腫瘍摘出術と神経心理機能、「脳腫瘍の外科；脳腫瘍手術の進歩と限界、田淵和雄編」メデイカ出版、大阪、pp39-47、2006.			
5. 與那覇博克、 <u>兵頭明夫</u> ：頸動脈と血管内エコー法（IVUS）「脳神経超音波マニュアル」、日本脳神経超音波学会機関誌Neurosonology編集委員会編集、日本脳神経超音波学会、大阪、pp73-76、2006.			
6. <u>兵頭明夫</u> ：脳腫瘍、「脳神経血管内治療のDo's & Don'ts第2版」、吉田純、宮地茂編、pp239-255、医学書院（東京）、2006.			
7. <u>兵頭明夫</u> ：「脳神経血管内治療のすべて—最新症例から学ぶ—」、菊池晴彦監修、兵頭明夫、坂井信幸、宮地茂、瓢子敏夫、小宮山雅樹、松丸祐司、根本繁編、にゅーろん社（東京）、2007.			
8. <u>兵頭明夫</u> ：リリキスト膜ほか。「医学大辞典第2版」伊藤正男、井村裕夫、高久史麿総編集、医学書院（東京）、2009.			
【原 著】			
欧文			
1. Ogawa K, Yoshii Y, Toita T, Saito A, Kakinohana Y, Iraha S, Sugimoto K, Tsuchida Y, Tamaki W, Adachi G, <u>Hyodo A</u> , Murayama S: Hyperfractionated radiotherapy and multi-agent chemotherapy (Procarbazine, ACNU and Vincristine) for high-grade gliomas: A prospective study. Anticancer Reserch 26:2457-2462, 2006.			
2. Ogawa K, Yoshii Y, Inoue O, Toita T, Saito A, Kakinohana Y, Adachi G, Iraha S, Tamaki W Sugimoto K, <u>Hyodo</u>			

A, Murayama S: Phase II trial of radiotherapy after hyperbaric oxyneation with chemotherapy for high-grade gliomas: British journal of Cancer 95:862-868, 2006.

3. Yonaha H, Hyodo A, Inaji T, Ito K, Kushi S, Tsuchida Y, Saito A, Sugimoto K, Yoshii Y: Thromboembolic events associated with coil protrusion into parent arteries after GDC treatment. Interventional Neuroradiology 12: 105-111, 2006.
4. Ogawa K, Yoshii Y, Nishimaki T, Tamaki N, Miyaguni T, Tsuchida Y, Kamada Y, Toita T, Kakinohana Y, Tamaki W, Iraha S, Adachi G, Hyodo A, Murayama S: Treatment and prognosis of brain metastases from breast cancer. J Neurooncol 86:231-238, 2008.
5. Yoshii Y, Tominaga D, Sugimoto K, Tsuchida Y, Hyodo A, Yonaha H, Kushi S: Cognitive function of patients with brain tumor in pre- and postoperative stage. Surg Neurol 69:51-61, 2008.
6. Ogawa K, Yoshii Y, Nishimaki T, Aoki Y, Nagai Y, Tsuchida Y, Toita T, Kakinohana Y, Tamaki W, Iraha S, Adachi G, Hirakawa M, Kamiyama K, Inamine M, Hyodo A, Murayama S: Treatment and prognosis of brain metastases from gynecological cancers. Neurol Med Chir (Tokyo) 48:57-63, 2008.
7. Ogawa K, Yoshii Y, Shikama N, Nakamura K, Uno T, Onishi H, Itami J, Shioyama Y, Iraha S, Hyodo A, Toita T, Kakinohana Y, Tamaki W, Ito H, Murayama S: Spinal recurrence from intracranial germinoma: risk factors and treatment outcome for spinal recurrence. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2008 Dec 1;72(5):1347-54, 2008.

和文

1. 與那覇博克, 兵頭明夫, 稲次忠介, 伊藤公一, 久志助光, 土田幸広, 斉藤厚志, 杉本耕一, 吉井與志彦: HyperForm balloonを用いたremodelingを併用した脳動脈瘤の塞栓術. 脳卒中の外科, 34巻6号: 428-433, 2006.

【症例報告】

【総説】

和文

1. 與那覇博克, 兵頭明夫: ガイドラインに基づいた脳梗塞治療～急性期と慢性期～急性期と慢性期の血管内治療。Mebio22, No. 3:51-58, 2005.
2. 兵頭明夫: くも膜下出血に対する血管内治療。分子脳血管病 4, No. 2:30-37, 2005.
3. 兵頭明夫, 松丸祐司: 脳脊髄血管内治療の最前線、虚血性脳血管障害、頭蓋内動脈狭窄症。CLINICAL NEUROSCIENCE、23:1156-1159, 2005.
4. 與那覇博克, 兵頭明夫: 脳神経の血管内治療; 脳動脈瘤コイル塞栓術。Phama Medica 24, No. 12:11-15, 2006.
5. 兵頭明夫: 脳動脈瘤に対する血管内治療-切らずに治す脳動脈瘤の治療-。沖縄県医師会報 43:691-699. 2007.

【その他】

欧文

1. Yonaha H, Hyodo A, Minei S, Kushi S, Inaji T, Tsuchida Y, Saito A, Sugimoto K, Yshii Y: Remodeling technique of endovascular aneurysm treatment with Hyperform Balloon. Progress in Therapy (Micro Therapeutics, Inc.):1-3, 2005.

和文

1. 兵頭明夫：きらずに治す脳動脈瘤の治療。みのはな同窓会報、みのはな 135:13-15, 2004.
 2. 橋本洋一郎、松岡秀樹、呉屋朝和、兵頭明夫、渡辺進：ブレインアタック時代の地域連携、座談会。日経メディカル 439 (九州・沖縄版)：1-4, 2004.
 3. 兵頭明夫：「頸動脈海綿静脈洞瘻」による複視は治りますか？ NHK今日の健康、3月号：127, 2006.
 4. 兵頭明夫：脳底動脈上小脳動脈分岐部動脈瘤の治療・成績—開頭手術—。脳底動脈遠位部動脈瘤—直接手術と血管内治療—第13回脳血管内治療仙台セミナー講演集：45-49, 2006.
 5. 兵頭明夫：How do you treat it?。脳底動脈遠位部動脈瘤—直接手術と血管内治療—第13回脳血管内治療仙台セミナー講演集：69-72, 2006.
 6. 兵頭明夫：診療教授になって。琉大病院HOTLINE：31：3。2006.
 7. 松本浩明、兵頭明夫：左頸部内頸動脈狭窄症に対する「8FGC用MS type」の使用経験。Clinical Case Report. Aspiration Catheter ELIMINATE. Clinical Supply Co., Ltd., No.1 December, 2006.
 8. 兵頭明夫、中野真一、西徹、平原一穂、Kwon SU：頭蓋内動脈狭窄病変と最新治療。Nikkei Medical：474, 5月号、九州・沖縄版：1-5、2007.
 9. 兵頭明夫、松丸祐司、長島久、瓢子敏夫：座談会 専門医が語る脳神経血管内治療最前線。第2回 脳血管内治療の明日を考える。新薬と臨床：56. vol.7：1065-1071、2007.
 10. 坂井信幸、寺田友昭、根本繁、瓢子敏夫、兵頭明夫、松丸祐司：座談会 脳血管内治療Summit2007-MicroPlexを中心に。脳神経外科速報：17no.11：1300-1309、2007.
 11. 有田和徳、西澤輝彦、永山哲也、兵頭明夫、：血管内治療の最前線—頸部頸動脈狭窄に対するCASの現状—。日経メディカル 483 (鹿児島版)：1-4, 2008.
 12. 兵頭明夫：沖縄からもどって。日本脳神経外科女医会会報 37:10, 2008.
 13. 兵頭明夫：教授就任のご挨拶。獨協医科大学学内便り 408:3, 2008.
 14. 保谷克巳、兵頭明夫：TRUFILL DCSオービットComplex Standardが有用であった一例。Clinical Update special edition:1-2, ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、2008.
 15. 保谷克巳、兵頭明夫：破裂内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤に対するコイル塞栓術。Clinical Brief:1-2, 株式会社カネカメディックス、2008.
 16. 瓢子敏夫、江面正幸、伊藤靖、桑山直也、宮地茂、坂井信幸、兵頭明夫：Round Table Discussion 2008, TRUFILL DCSオービット座談会。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、1-20, 2008.
 17. 園部眞、兵頭明夫、玉谷真一、黒川重雄、徳永恵子：座談会 脳梗塞患者の頸動脈ステント留置術の現状と展望。フォーライフメディカ：1-5, 2008.
 18. 石原正一郎、棚橋紀夫、前島伸一郎、兵頭明夫、田中美千裕、佐藤和彦：脳梗塞例に対する血管内治療の現状。MEDICAMENT NEWS号外：1-4, 2009.
 19. 根本繁、兵頭明夫、中原一郎、松丸祐司、大石英則：脳梗塞患者における頸動脈ステント留置術の現状と今後の展望。MEDICAMENT NEWS1971:10-13, 2009.
 20. 兵頭明夫：切らずに治す脳動脈瘤の手術。はなみずき 28:2, 2009.
- 田中喜展、兵頭明夫、鈴木亮太郎、岩楯兼尚、木幡一磨、高野一成、永石雅也、内田貴範：シャント術にストラータバルブが有効と思われた2症例の紹介。Medtronic PS Medical Shunt News:2009年5月D号。日本メドトロニック株式会社, 2009.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院脳神経外科	講師	田中 喜展	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1996年2月～現在	日本頭蓋底外科学会会員		
1996年5月～現在	日本脳神経外科学会会員		
1996年5月～現在	日本脳神経外科コンgres学会員		
1996年5月～現在	日本脳卒中学会員		
2004年5月～現在	日本神経内視鏡学会員		
2008年5月～現在	日本脳神経外科血管内治療学会員		
2008年9月～現在	日本神経超音波学会員		
2009年3月～現在	日本脳神経外科整容医学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. Yoshimoto Y, <u>Tanaka Y</u> , Sanada T : Angiographic assessment of cerebral circulation time for outcome prediction in patients with subarachnoid hemorrhage. Surg Neurol 62 discussion 120 : 115-120, 2004.			
2. Yoshimoto Y, Hoya K, <u>Tanaka Y</u> , Uchida T : Basilar artery dissection. J Neurosurg. 102 : 476-481, 2005.			
3. Yoshimoto Y, <u>Tanaka Y</u> : Biological heterogeneity and length-biased sampling in asymptomatic neurosurgical patients. Br J Neurosurg 22 : 368-372, 2008.			
【症例報告】			
和文			
1. 永石雅也, <u>田中喜展</u> , 内田貴範, 高野一成, 木幡一磨, 好本裕平 : 皮質静脈血栓症の1例. 脳神経外科ジャーナル17, 2007			
2. 永石雅也, 鈴木亮太郎, 岩楯兼尚, 木幡一磨, <u>田中喜展</u> , 保谷克巳 : Posttraumatic pseudomeningocele の1例. Brain and Nerve 2009 3;61(3) : 324-327, 2009.			
【総 説】			
【そ の 他】			